

2016/4/10 山陰中央新報

島根原発避難計画

課題山積と指摘

市民団体、松江で学習会

原発に依存しない地域を目指す市民団体「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」が9日、松江市内で中国電力島根原発（松江市鹿島町片匂）の事故を想定した避難計画に関する学習会を開いた。

原子力規制委員会による島根原発2号機の新規制基準適合性審査が進む中、避難計画を検証しようとする。専用ソフトを使って、原発事故が起きた場合の放射能拡散のシミュレーション

ンを行うなどした。

避難計画についてメンバーは、要援護者への支援やバスの調達、受け入れ先の態勢整備など課題が山積していると指摘。島根大名誉教授で、同連絡会の保母武彦事務局長は「実効性があるというにはほど遠い。30キロ圏内だけでなく、全県の問題として真剣に考えなければならぬ」と述べた。

同連絡会は今後、島根原発の再稼働反対の署名活動を本格化させる。併せて島根県、松江市に対し公開質問状を提出する方針という。（平田智士）